

2023年度(令和5年度) 学校関係者評価

日本医科大学看護専門学校

2023年度(令和5年度) 学校関係者評価

1. 目的

当校における教育活動及び学校運営の状況について、自己点検報告書「学校運営評価」の結果から評価し、学校運営の継続的な改善を図るための助言をする。

2. 実施方法

各委員に対して自己点検報告書「学校運営評価」を郵送し、当該年度の取り組み及び課題の達成度について、以下の評価尺度に基づき、点数評価とコメントの記入を依頼した。委員の意見を纏め、また、委員から質問等があった場合は、学校側の解釈・回答を含めて記載したうえで、これを各委員に送付して点検を受けた。

3. 各カテゴリーの評価点数

I 教育理念・目的・目標	3.0	V 入学	2.8
II 教育課程経営	2.8	VI 卒業・就業・進学	2.8
III 教育活動・評価	2.8	VII 地域社会／国際交流	2.8
IV 経営・管理過程	3.0	VIII 研究	3.0

【評価尺度】 「カテゴリーごとの取り組みは優れている／前年度の課題が解決された」

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

4. 2023年度 総評

2023年度は、新型コロナウイルスが5類感染症に位置づけられ、社会生活は徐々にコロナ禍前の状況に戻っていったが、感染の波は繰り返し生じていた。当校ではマスク装着を継続し、対面授業を行うことができたこと、臨地実習は少人数制で実施し、高齢者施設や訪問看護ステーションなどでも、各施設と相談し、感染防止策を講じながら実習を継続できたことは良かった点である。

課題1～7については以下のとおりである。実習指導者協議会では、学生の技術到達状況やその分析、前年度との比較などを報告している。効果的な実習方法に関する協議は引き続き行う必要がある(課題1)。

教育活動では、小児ラングの購入とフィジコの更新を行い、シミュレーション学習の充実を図っている。eラーニングの活用、感染症による出席停止者への録画講義配信は、単位修得試験に向けた準備にも役立っている。教育機器は充実してきたので、事例等と結び付けて効果的に活用していくことが期待される。また、技術経験録の活用について、今後検討することが望ましい(課題2)。

受験生に向けた情報発信として、「日本医科大学看護教育100周年記念誌」を発行し、県内の高校に贈呈したほか、受験生向けにはダイジェスト版を制作した。また、学校HPを更新し、スマートフォンから見やすいデザインにした。今後はSNSの活用を進めていくことが望ましい(課題3)。

国家試験対策と臨地実習の連結については、受け持ち患者の看護過程を展開し学んだことが、国家試験の状況設定問題にて問われるため、看護過程の展開が国家試験につながっていることを早くから意識して取り組むことが実力養成につながると考える(課題4)。第113回国家試験結果は95.5%(全国平均93.2%)であり好成績を取ることができた。今後も学年や個人の特性に合わせた国家試験対策を練り、取り組むことが期待される(課題5)。卒業生の97%が日本医科大学付属4病院に就職しており、卒業生の動向を看護部や人事部から情報提供してもらい、課題等をより明確にしていくことが望まれる(課題6)。

研究活動については、千葉県看護学校協議会主催の研修会「各学校の取り組み」において、毎年、自校の教育活動を評価・発表することにより、教育体制の充実につながられる。課題7については終了とする(課題7)。

5. 今後の課題

学校関係者評価を終えて、次年度の課題は以下のとおりとする。

カテゴリー	課 題
II 教育課程経営	1. 実習協議会において、制限のある臨地実習における効果的な実習方法を協議する。
III 教育活動・評価	2. シミュレータ等教育機器の効果的活用について技術経験録の利用も含め工夫する。
V 入学	3. 受験生に向けた情報発信に電子媒体を活用する。
VI 卒業・就業・進学	4. 臨地実習の受け持ち患者の看護過程が、国家試験の状況設定問題に連結していることを学生が意識できるように、各看護領域で取り組む。
	5. 国家試験合格率を安定的に高める方策を練る。
	6. 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等の体制を整備する。